

芦屋女短大 谷川 寿枝

1. 能、歌舞伎と共に重要無形文化財として知られている文楽は、地味乍らその芸術性は海外に迄高く評価されています。私は偶然にその「かしら」の彫り方を教えて頂く機会を得、文楽協会へ出入りする事になりました。狂言上演中の血の通った人形と、舞台裏に吊られて出を待つぼんやりした人形を見て、その浄瑠璃・三味線・人形遣いの方々の三者一体の技能・操作の如何に至難なものかという事を知りました。又その裏で、こつこつその準備・修正に専念される人形製作者床山さん、衣裳係等の方々の労苦も大変なのです。大昔の一人遣いの突込み人形時代と異なり、出遣い三人遣いの操作には、何か衣裳の縫方にも特別な工夫があるに違いないと考えてみたのです。

2. 研究方法として飾人形製作と共に衣裳を実際に縫ってみました。又雛形標本を作る事にし、スライドと、実物にてお目にかけるつもりです。

3. 偶然の研究が発展して、文楽への理解と、衣裳縫製技法の一端を身につける事が出来ました。本当に有難い事です。協会の方々に深く感謝しています。